



フードバンクちば × 千葉県内生活協同組合

## いのちをつなごう

キャンペーン2018.9/1SAT ~ 11/30FRI

### なのはな生協のキャンペーンの様子を

### 取材しました！！

なのはな生協では昨年に続き、今年は9月17日から10月5日までの期間で『フードバンクちばと千葉県内生協連携キャンペーン』をおこないました。

キャンペーンの取り組みとしては配達時にチラシを配布して組合員に協力を呼びかけ、配達時にお預かりした食品をフードバンクちばにお届けするという取り組みです。今年のキャンペーンは2年目ということもあり、組合員の認知も拡がりたくさんの食品が集まりました。また、今年取引している千葉北部酪農さんから八千代コーヒー3,600本や生産者の方からお米300kgの提供がありました。千葉北部酪農さんからはメッセージも頂き、フードドライブの取り組みに対して認知度が高まっています。



千葉北部酪農さんから提供して頂いた八千代コーヒです。  
カゴ車4台に積み入れ倉庫の一角を占めていました。



お米は時期的にもたくさん集まっています。生産者の方から提供された新米（左）や配達したお米（右）を組合員がそのまま提供して頂くこともあるそうです。



名前と内容が記入された紙が添えられ提供されます。

お中元やお歳暮などもありました。



## 満井副理事長より



昨年に続き、今年もフードドライブの取り組みの目的を全員で共有してキャンペーンをおこないました。今年は組合員から「キャンペーンをやるのですか？」等の電話での問い合わせもあり、昨年の効果がありました。また、今年は子ども食堂「からべえ」も行っているのでメーカーさんや生産者の方からの提供もあり、組合員からも箱詰めして提供してくれる人が増えました。認知度が高まるように継続した取り組みにしていきたいと思います。

## 配達担当の元吉さん、谷さんより（左：元吉和宏さん 6 年目、右：谷翔太さん 4 年目）



昨年も取り組んでいるので今年で 2 回目になりました。取り組みを行なっている感想としては意外とフードドライブの取り組みに理解を示してくれる人が多いんだと感じています。中には普段会えない方からも出してくれることがあり、認知度が高いなあ実感しています。「生協さんだから安心して提供できるわ」と組合員さんから言われるのでこの取り組みは、ぜひ行なっていきたいと思います。

## 組合員から頂いた声

「キックオフイベントに参加しました。こんなにもひどい状態になっていることを知りませんでした。いずれはフードバンクちばに行ってお手伝いしたいと思いますが、とりあえず今できる食品の寄付をいたします。」

「去年も参加しました。今年もやると聞いて用意していました。貧困がなく、本来ならこのような活動がないのが良いと思いますが現実には違います。貧困がなくなるまで継続してほしい。」

「お中元の余りのものですが、寄付いたします。お歳暮の時期にも余るので年 2 回やっても良いのでは、……」

「誰でも簡単にできるフードドライブ。いいですね。」

**「余っているもので社会貢献できるいい運動だと思います。」**

### **取引先から頂いた声**

今回のキャンペーンで取引先や生産者の方からも食品を提供して頂きましたが、千葉北部酪農さんからは以下のメッセージも頂きました。  
全文をご紹介します。

#### フードドライブへのメッセージ

私ども千葉北部酪農協は、主に牛乳・乳製品と牛肉を取り扱っている産直団体で、原料となる生乳や牛乳は、弊組合の酪農組合員及び肥育組合員の牧場から出荷して頂いたものを原料として製品を作り供給しております。

私どもは、これからの時代は、組織としても社会貢献活動に取り組まなければならないと考えております。

今回、寄付させて頂いた「八千代コーヒー」に使用されるコーヒー豆はレインフォレストアライアンス認証農園のものを100%使用した微糖仕上げのコーヒーです。レインフォレストアライアンス認証は、農園労働者の権利と福祉の支援、天然資源の保全・野生動物と環境の保全の一助になっている証です。

フードドライブで利用して頂くことで、この商品の社会貢献的な存在意義をより発揮出来るのではないかと思います。日本は、言うまでもなく、食糧自給率が低いにもかかわらず、豊かな食生活を送れている国であります。しかし、地球規模の天災や、国際問題などですぐに崩れてしまう「砂の城」の状態の様な気がしてなりません。フードバンク様のこのような取り組みは、日本では、益々必要になってくると思います。いろいろと大変かとは思いますが、私どもも意義のある活動であると思っておりますので、是非とも有効活用してください。

平成30年10月3日

千葉北部酪農農業協同組合

牛乳事業部長 菊谷義徳